

「生きる力」を育てるライフスキル教育

——プリントメディアを活用した実践

●西宮ライフスキル研究会

●子どもたちの自尊心を大切に 教育現場の抱える問題を解決したい

本誌第85号で紹介した、ライフスキル教育の実践書「ライフスキル―学級で高めるセルフエスティーム」が、今話題を集めています。

出版したのは、兵庫県西宮市などの小学校教諭らでつくる西宮ライフスキル研究会。現在、6年目を迎える同会は、カウンセリングの勉強会に参加していた4人の先生方が、WHOが提唱するライフスキル（注1）の考えに出会い、授業に取り入れたいと考えたことが発足のきっかけでした。

「一般に、ライフスキルは、『日常生活で生じる諸問題を建設的に解決する能力』のことをいいますが、私たちは、一人ひとりのセルフエスティーム（健全な自尊心）の醸成を何より大切に考えています。自分のよさが分かれば、他人のよさも認めることができる。結果、いじめなどの問題解決につながると考えました」（西宮市立菩薩園小・大東和子先生）

●5年間にわたってプログラムを開発 実践する中で子どもたちに変化が

早速授業に取り入れたと考えたものの、当時既存のプログラムはありませんでした。そこで、自分たちでプログラムづくりを決意。

「ライフスキルは、『自己認知』と『他者理解』など関連しあう2つのスキルを1セットとして、5セット10スキル（注2）に分類されます。そこで、1セットを1年、5年で全プログラムを完成させようと考えました」（大阪市立新東三国小・越智泰子先生）

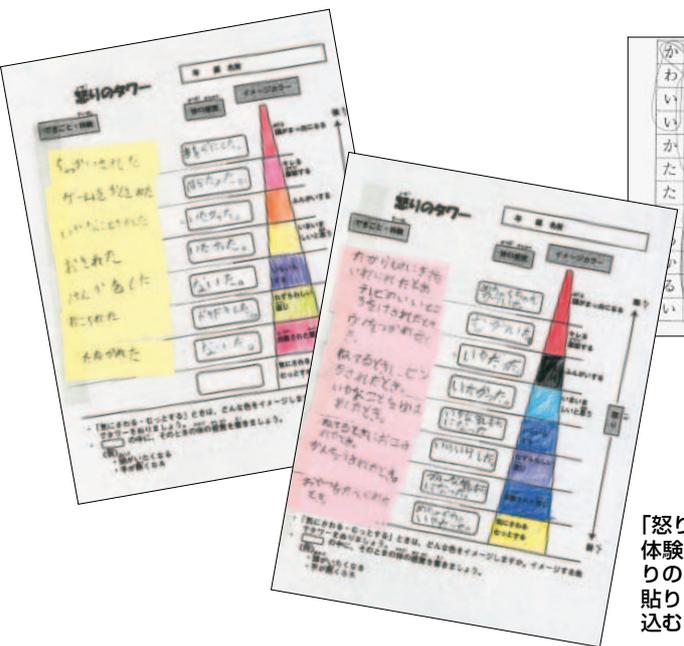
各先生が総合学習の時間などで実践し、その記録を持ち寄って検討。カウンセリングの先生のアドバイスを受けながら改良を重ね、プログラムを完成させていきました。

たとえば、「感情パズル」というプログラムは、12マス四方の各マスに、縦・横・斜めに並んだ感情を表す言葉を友達と協力しながらさがすというもの。

「最近の子どもは、自分の思いや感情を的確に表現できず、『むかつく』など一言で表現す



「感情パズル」。感情を表現する言葉を見つけ出す。これにより、人にはいろいろな感情があることを知ることができる



「怒りのタワー」。児童は、それぞれ怒りの体験をカードに記入。そのカードが、「怒りのタワー」のどの程度になるかを考えて貼り、各段階のイメージカラーなどを書き込む



西宮ライフスキル研究会のメンバー。左から加島ゆう子先生、越智泰子先生、大東和子先生、棚橋厚子先生

越智先生が発行する学級通信「I am OK. You are OK.」学年のはじめの第1号には、ライフスキルの精神を分かりやすく紹介



大東先生が発行する学級通信「たのしい1-3」。ライフスキル教育を紹介(上)。児童や保護者の声を数多く紹介している

※(注1)ライフスキル WHO(世界保健機構)が提唱。ライフ(生活)とスキル(技術的能力)の合成語。個々人が、日常生活において直面するさまざまな要求や難題にうまく適応し、かつ積極的に行動していくことができる能力を意味する。
 ※(注2)5セット10のスキル [情動対処スキル・ストレス対処スキル]、[自己認知スキル・他者理解スキル]、[コミュニケーションスキル・対人関係スキル]、[意思決定スキル・問題解決スキル]、[創造的思考スキル・批判的思考スキル]

る傾向があります。しかし、ゲーム感覚で取り組むうちに自分の心中の感情を知ることができるとはと考えたのです。実践を続ける中で、子どもたちに『他人に対する思いやり』が如実に現れてくるなど予想以上の成果が上がりました(加島ゆう子先生・現在大学院にて研究中)

●効果をあげたプリント教材の活用
 市内の全小学校に小冊子を配布

こうした実践に欠かせなかったのが、オリジナルのプリント教材でした。プログラムにあわせてワークシートを作成、これが授業展開の基礎となりました。

また、1年ごとに取り組みを40頁程度の小冊子にまとめ、西宮市内のすべての小学校の担当教諭に配布しました。

「自己満足で終わらないよう情報発信しました。フィードバックもあり、刺激を受けました。

また、自分も参加したいと新たに参加する先生も現れ、活動の輪が広がりました(西宮市立甲陽園小・棚橋厚子先生)

●家庭の理解と協力は不可欠
 学級通信でコミュニケーションを

ライフスキル教育を進める上で活用されたのが、日々発行される学級通信でした。

「子どもたちの自尊心を高めるためには、周りの協力、サポートが必要です。中でも両親をはじめとした家族の理解は何より重要。ですから、私は、学級通信の第1号には、必ずライフスキルの精神、その大切さについて記し、ご家族との意識の共有を図っています(越智泰子先生)

また、大東先生は、「毎日、どのようなライフスキル教育を行ったかを、子どもたちの声、保護者の感想も交えながらお知らせしました。

保護者の皆さんも読んで関心を示されました。また、学級通信を家族に見せながら、授業の内容や楽しかったことなど事細かに話した子どももいたようです」と話します。

情報発信と、通信をきっかけにした、先生と子ども、そして保護者と双方向性のあるコミュニケーション。学級通信が家庭と一体となったライフスキル教育実現の大きな助けとなったようです。

◆

メンバーの先生方の「教育問題が山積している中、少しでも私たちの取り組みが役立てば」という思いがこめられた「ライフスキル学級」で高めるセルフエスティームは、171頁(定価:1600円)。問い合わせは、苦楽園小学校・大東和子先生へFAX(079817214815)で。